

令和元年度 東京都地域活動に関する検討会（第2回）

事前アンケート 集計結果

<多文化共生の推進について>

東京都生活文化局

令和元年 11 月

# 1 外国人との共生を目的とした事業の実施例

外国人との共生を目的とした事業を行ったことがありますか。その場合、どのような事業を行ったか、ご教授ください。

## (1) お互いの料理や文化などによる交流事業

- 地域祭りに参加してもらうなどの交流活動
- 在住外国人住民との国際交流を目的に、文化祭を実施

### 良かった点

- 日本や外国の文化を知るきっかけになった。
- お互いの違いと文化を体験する機会として好評だった。

## (2) ガイドブック・加入促進パンフレット等の作成

- 日本語のほか英語、中国語、ハングルの町会・自治会加入促進リーフレットや加入申込フォームを作成
- 加入の案内（リーフレット）の外国語版の作成を検討している
- 地域まつりで町会・自治会に加入促進のパネルを外国語で展示
- 加入促進パンフレット内に自治会加入をした外国の方のインタビューを掲載

### 良かった点

- 外国人向けのリーフレットの配布や自治会加入申込フォームの作成により、外国人に対して申込を分かりやすく案内することができるようになった。
- 地域在住の外国人に対し、町会・自治会を周知することにより、少しずつではあるが加入促進につながっている。

### (3) 防災訓練

- 多言語による広報や外国人を雇用する企業に呼びかけを行い、地域の外国人との防災訓練を行った。

#### 良かった点

防災訓練では、地域に住む外国人が安全安心な生活の助けになるとともに、地域防災への協力が期待できる。

### (4) その他

- 町自連主催の講演会で外国人居住者が自治会役員となり活躍している事例を紹介

#### 良かった点

講演会のアンケートで、外国人世帯とコミュニケーションを上手くとりたいたいという表現や参考になったという意見が多数あり、町会・自治会加入促進への取り組み意欲の向上につながった。

- 町会・自治会向け講習会として、区内に暮らす外国人がどんなことに困っているのか、何が分かりにくいのかなど、日本語で外国人に伝えるときのポイントや、実際に区内に暮らす外国人の方から、地域のルールや言葉で困ったことなど貴重な体験談を聞く「外国人と生活、伝わる日本語」を実施

#### 良かった点

外国人の住民に対しては小学3年生までに習う程度の日本語を、ゆっくり、はっきりと伝えればよい、との内容に、参加者から「参考になった」といった意見を非常に多くいただいた。また、町会から、講座で学んだことを活用したところ、地域の外国人に加入してもらえたとの話があった。

- 地域の交流イベント「みんなの川の清掃デー」に外国人留学生が参加

良かった点

参加する外国人に対して、町会・自治会の活動を紹介できるほか、地域の方と交流する機会を創出することができた。町会・自治会の方から、外国人が参加することで例年実施しているイベントも違った雰囲気となった、日本語ができる外国人留学生とたくさん話をする事ができた、などの意見をいただいた。外国人が増えている現状を知ってもらうとともに、多文化共生について考えてもらう機会となった。

- 大学の留学生との交流を行っており、町会の祭礼に留学生を招き、神輿、山車の渡御、巡行に参加してもらっている。浴衣や足袋、雪駄、袋物などを用意し、日本の文化に接する機会を提供している。町内に在住する外国人にも神輿を担いでもらっている。神事や祭礼に参加することで、日本の風俗、文化を体験する機会となっている。

良かった点

留学生に好評で、15年継続して実施している。町内に在住している外国人に毎年神輿を担いでもらっており、相互の交流が図れている。

## (5) 行っていない理由

- 在住外国人の増加については把握しているが、事業実施に至っていない。
- どのような事業を行ってよいかわからない。
- 事業の進め方や外国人参加者への周知方法が分からないため。
- 在住外国人数が少ないため。
- 現在は行っていないが、国籍の多様化が進む中ではそのような事業も必要であると考えため、今後検討する。

## 2 在住外国人に関する課題について

現在、在住外国人に関して各町会・自治会における課題はありますか。

- コミュニケーションがとれずに、町会への加入につながらない。町会・自治会のことについて理解を得ることが困難である。(6団体)
- ゴミだし等の地域や町会のルールに関するトラブルが発生している。(7団体)
- 夜中の騒音や頻繁な人の出入りなどに不安を感じている。(5団体)
- 在住外国人を把握できていない町内会・自治会もあり、コミュニケーションがない、顔が見えるお付き合いができない。(1団体)
- 先日の台風19号の時のような災害時の情報伝達について課題に感じている。(1団体)

## 3 ご意見・地域の活動事例

その他、ご意見や地域の在住外国人との共生について、ご紹介いただける事例等がありましたらお願いします。

- 町内の日本語学校と永年に渡り交流している。
- 盆踊りには、浴衣をプレゼントして、練習から参加してもらい、本番では踊るだけでなく夜店の手伝いにも関わり、秋の祭りでは、神輿を担ぐなど、町会行事の手伝いと参加、また日本語弁論大会には町会として応援に出向くなど日常の交流に務めている。
- 地域の在住外国人で、一年間にわたり視覚障害の児童を学校から学童保育所まで定期的に下校のサポートをしてもらった方がいる。ファミリーサポートセンターも社会福祉協議会のボランティアも機能しない中で、

大変助けられた。防災訓練や地域の催事にも積極的に参加し、現在、町会の役員としても活躍している。

- 外国人は基本的に町会・自治会には無関心であるように見える。子どもを学校に行かせている親はつながりがあるので、町会・自治会に加入していただいている。